

7月5日
**みんなで住みよいまちづくりを
 社会を明るくする運動の街頭啓発**



町内のスローパーで啓発

社会を明るくする運動強調月間の7月5日、保護司会や更生保護女性会などで組織する実行委員会(実行委員長・徳永町長)の皆さんによるさまざまな啓発活動が行われました。

J A摩周湖前とフクハラ摩周店前では買い物客にうちわなどを手渡し、住みよいまちづくりへの理解と協力を呼び掛けました。また、町内小・中学校を訪問し、子どもたちへノートやペンを贈るなどの啓発活動を行いました。

6月26日
**皆さんが歩きやすい登山道に
 摩周岳登山道でササ刈り**



曇天の中での作業に

川湯エコミュージアムセンターを運営している屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会(会長・徳永町長)を中心とした関係機関の皆さんが6月26日、摩周岳登山道の整備を行いました。

毎年初夏と秋の2回、登山道入口から頂上までの片道約7.2キロの間で実施されているものです。この日参加した13人は4グループに分かれ、森林組合員が機械で刈ったササを、熊手で登山道中央部に寄せ集めていきました。途中、登山道にかかった支障木も撤去され、歩きやすい登山道となりました。次回は9月下旬~10月上旬に行われる予定です。

6月12日
**新しい就農者を激励
 新規就農準備資金交付式**



新たな決意を胸に

町内で新たに就農した農家に対し、町新規就農者誘致特別措置条例に基づいた準備金の交付式が6月12日、役場内で行われ、町長から目録が手渡されました。また、J A摩周湖からも新規就農支援金の目録が川口組長より手渡されました。

交付を受けたのは、牧之瀬佳貴さん、智子さん(仁多 酪農)ご夫妻。関東で一般企業に勤めていましたが、弟子屈の自然に惹かれ、移住を決意。酪農研習生として、研修を重ねながら、就農の準備をしてきました。牧之瀬さんは懇談で「一からの就農で、周りの方のサポートがありがたかった。新鮮な牛乳を使ってバターづくりもしたい」と話していました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課広報統計係 ☎482-2913(課直通)

7月7~8日
**弟子屈の魅力にふれて
 100km歩こうよ♪大会in摩周・屈斜路2018**



自然を満喫しながらゴールを目指す

100km歩こうよ♪大会in摩周・屈斜路2018(同実行委員会主催)が、7月7~8日に開催されました。コースは川湯温泉を出発し、砂湯・コタンを超えて、道の駅摩周温泉を通過、9〇〇草原へ行き、さらに摩周湖へ登り、川湯温泉へ戻ってゴールする、全長約82キロを歩きます。全国から約190人の大会参加とサポートスタッフの参加があり、弟子屈の景色を楽しみながら歩きました。

今年は、コースの整備やサポートの数を増やし「リアル100キロ」コースを設定。過去の完歩者20人が挑戦しました。

7月7日
**水の大切さを考える契機に
 摩周大橋で被災者へお見舞いのメッセージ**

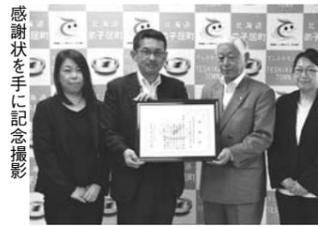


ミスベリングに賛同して

「ミズベリングプロジェクト」の「水辺で乾杯」が7月7日、摩周大橋で行われました。

この取り組みは、水辺に親しみ、水の大切さを考える機会をつくろうと、国土交通省などが中心となってさまざまな活動を行っています。水辺で乾杯は、七夕の午後7時7分に各地で思いを共有しようといわれたもの。町民の方や観光客のほか、釧路開発建設部や役場の職員、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイのメンバーなど、約60人が集まり、今回は乾杯ではなく、西日本での豪雨被害を受けた方へのお見舞いのメッセージを込めた写真を撮影しました。

6月25日
**明治安田生命保険(相) 釧路支社中標津営業所
 「自然の番人宣言」への協力に感謝状贈呈**



感謝状を手に記念撮影

長年に渡り、町への環境対策の取り組みを行ってきた明治安田生命保険相互会社釧路支社中標津営業所(吉高神尊営業所長)に対し、感謝状が送られました。同社は釧路管内の各市町村で行われている「自然の番人宣言」にあわせ、平成20年から毎年、町にごみ袋を寄附してきました。また、ウォーキングを楽しみながらごみを回収する「摩周湖クリーンウォーク」へも積極的に参加するなど、環境問題に取り組んできました。贈呈された吉高神営業所長は「弟子屈町はさまざまな環境対策を行っている。これからも協力していきたい」と話していました。

6月18日
**弟子屈生活をPRし人口増につなげたい
 移住アドバイザー会議を開催**



移住促進に向けて意見交換

移住アドバイザー会議が6月18日、役場で行われました。会議には、河村晃さん、萩原寛暢、炭田晃希さんが出席し、それぞれ登録証が交付されました。移住アドバイザーは、本町への移住を検討されている方に対し、移住後の生活などの相談対応を行うもので、実際に本町に移住された方が登録されています。会議では昨年度の活動報告の後、新年度の事業内容の検討と意見交換を実施。アドバイザーの皆さんからは、移住者ならではの目線で課題や改善点などさまざまな意見が出されました。

7月12日
**ふるさとの釧路川を豊かに
 リバープロテクション・21の会がヤマメを放流**



無事に大きくなれと願いを込めて

釧路・リバープロテクション・21の会(上田光夫会長)によるヤマメの稚魚の放流が7月12日、摩周温泉公園の釧路川護岸で行われました。

魚類資源の回復のために毎年行っているもので、釧路開発建設部釧路河川事務所や町、会員など関係者約40人が参加。摩周丘幼稚園(鈴木幸栄園長)20人と、弟子屈小学校(中原英雄校長)の2年生37人も招待され、ヤマメの稚魚2,000匹を放流しました。

7月10日
**特殊詐欺・飲酒運転の防止を呼びかけ
 「かもめ〜」啓発はがき配達**



関係者に見送られ出発

弟子屈郵便局と弟子屈警察署が主催する「特殊詐欺・飲酒運転撲滅かもめ〜」の配達出発式が7月10日、弟子屈郵便局車庫前で行われました。

今年は、7月13日の「飲酒運転撲滅の日」を前に、悲惨な事故を起こしている「飲酒運転」と、多発する「特殊詐欺」の防止に向けた啓発を図るためのもので、6年前から取り組まれています。今年は町内の20の団体や企業が協賛。出発式には関係者約20人が参列。協賛団体の代表者がはがきを集配担当局員に手渡し、受け取った局員たちは安全唱和を行った後、参列者に見送られながら配達に出発しました。

6月25日
**援農への思いをつなぐ
 「援農の碑」記念式を開催**



感謝を込めて

太平洋戦争中の1945(昭和20)年、北海道援農勤労報国隊として本町に派遣された岩手県久慈農林学校(現・久慈東高校)の生徒をたたえる「援農の碑」記念式が6月25日、摩周観光文化センター敷地内にある同碑前で行われました。

同碑は、生徒たちの功労を忘れず感謝していこうと1989年6月25日に建立。同碑前での式典は、関係者で組織する「6・25会」が中心となって毎年6月25日に行っています。先人たちが愛した「北上夜曲」に思いを込めて、参列者の斉唱が響きました。今年は関係者約15人が出席し、生徒たちの功労や苦勞に思いをはせました。

6月25日
**町内の子どもたちによる花植え
 摩周森の公園でフラワータッチ**



お手本を参考に丁寧な作業

町内の保育園・幼稚園・小・中学校・高等学校が連携して行われる、「平成30年度弟子屈町フラワータッチ事業」が6月25日、摩周森の公園で行われました。花壇整備作業を通して、社会に貢献しふるさとを愛する心とまちづくり意識の醸成を目的として行われていて今年で3回目。当日は702人の児童・生徒が参加。前半と後半2つの班に分かれ、それぞれ10~15人ほどの縦割りグループを編成し作業を行いました。高校生を中心に、各グループの年長者が園児、小学生のお手本となり、用意された花1,252株を丁寧に植えました。